

弾性 防水性 低汚染 高耐候 高光沢 防カビ 防藻性

完全水系総合外装仕上げ工法

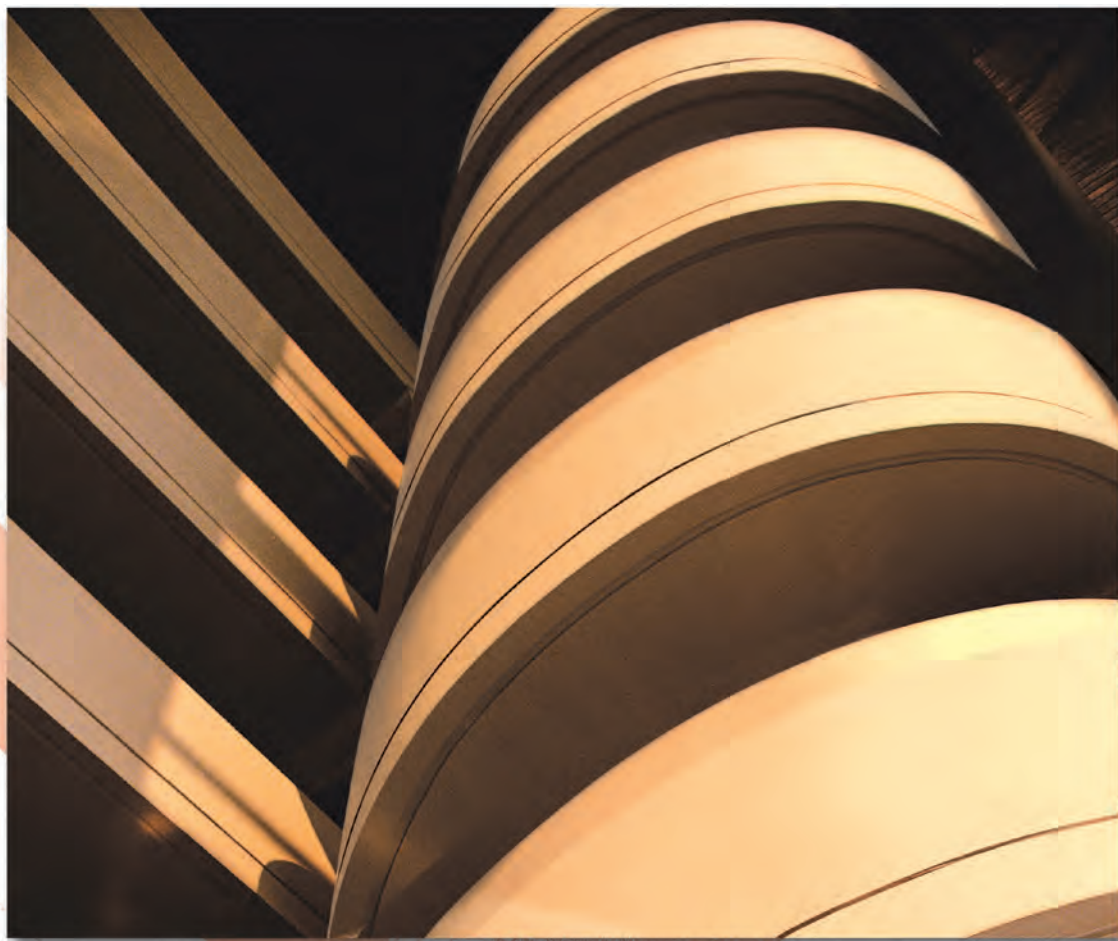
アレス弾性ホールド工法

STANDARD PATTERNS & COLORS

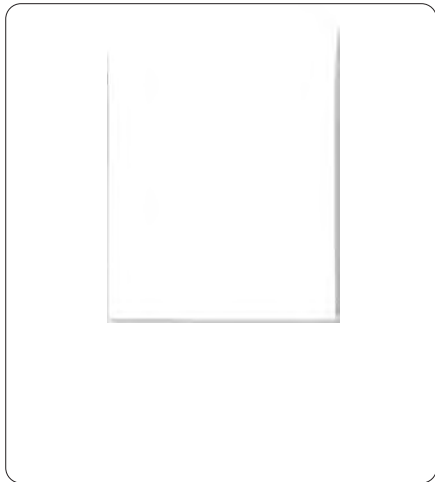
ALES ELASTICITY HOLD SYSTEM

JIS A 6909 建築用仕上塗材 防水形複層塗材 E

JIS A 6909 建築用仕上塗材 可とう形改修塗材 E



■アレス弾性ホールド工法



◀ 伸びを触感下さい。

■塗替えパターン例



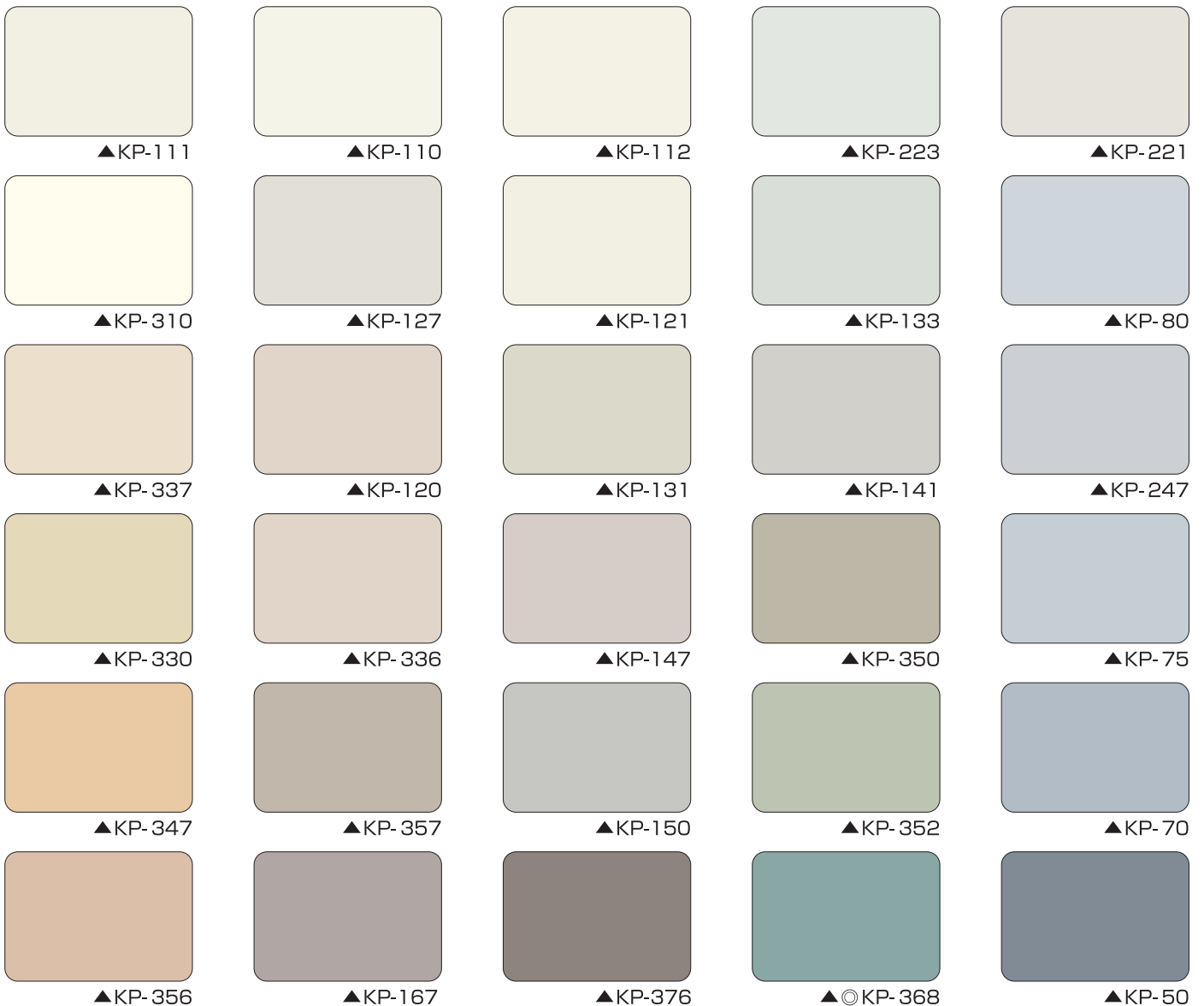
◀ アレス
アクア
シリコンACⅡ
(KP-112)

◀ アレス
弾性ホルダー防水形
(多孔質ローラー)

◀ リシン (既存塗膜)

■提案色見本

近年の流行色を厳選した、カラーバリエーションにしております。



●この色見本は紙に塗装していますので、実際の色・ツヤが多少異なる場合があります。予めご了承ください。

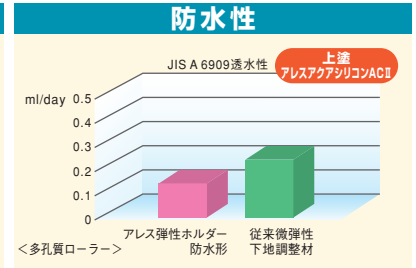
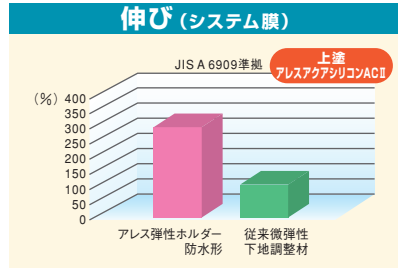
●提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳などでの調色も可能です。

◎は材料費が割高になります。

微弾性外装仕上げ工法の先駆者、^{バイオニア}関西ペイントがこれまでに培った技術力を結集致しました。
新世代複層工法の主役『アレス弾性ホルダー防水形』の誕生です。

アレス弾性ホルダー防水形の特長

1 「弾性」下地調整材です。
微弾性フィラーに比べ、塗膜の伸びに優れ、防水性に優れています。

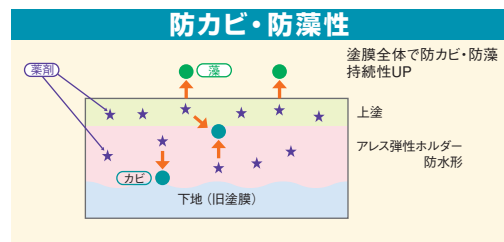


2 優れた付着力です。
付着性に優れていますので、微弾性フィラー同様、旧塗膜へのシーラーレス塗装が可能です。

付着性		付着強度 (N/mm ²)	
		アレス弾性ホルダー防水形	従来微弾性下地調整材
旧塗膜	アクリルタイル	2.3	1.9
	単層弾性	1.9	1.7

剥離箇所: 旧塗膜/フィラー

3 防カビ・防藻性を有しています。
上塗との組み合わせにより、塗膜全体で防カビ・防藻性を伴うことができます。



4 JIS A 6909 防水形複層塗材 E 適合です。
塗装条件を満たすことにより上記規格に適合致します。

※JIS適合塗装仕様をご参照ください。

5 肌が緻密で高仕上りです。
微弾性フィラーに比べ、トマリが良く、上塗りの吸い込みが少なく、仕上りに優れます。

性能 アレス弾性ホールド工法の試験成績表

JIS A 6909 防水形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材 (防水形複層塗材E)

試験項目	結果	試験規格
低温安定性	合格	塊がなく組成物の分離・凝集がないこと。
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	合格	ひび割れがないこと。
付着強さ (N/mm ²)	標準状態	1.3 0.7以上
	浸水後	1.2 0.5以上
温冷繰り返し作用に対する抵抗性	合格	試験体の表面に、はがれ・ひび割れ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。
透水性B法 (ml)	0.1	0.5以下
耐衝撃性	合格	ひび割れ、著しい変形及び剥れがないこと。
耐候性A法	合格	ひび割れ及び剥れがなく、変色がグレースケール3号以上であること。
耐候性B法	合格	照射時間2500時間で、塗膜に、割れ、はがれ及び膨れがなく、光沢保持率は80%以上で、変色の程度がグレースケール3号以上であり、白化の等級が1以下であること。
伸び (システム膜)	20℃時	265 120%以上
	-10℃時	29 20%以上
	浸水後	365 100%以上
	加熱後	203 100%以上
伸び時の劣化	合格	はく離・反り及びねじれがなく、主剤に破断及びひび割れがないこと。(→50%伸張させてから80℃1週間静置)
試験仕様	下塗材	エコカチオンシーラー (ウールローラー1回塗り)
	主材	アレス弾性ホルダー防水形 (多孔質ローラー2回塗り)
	上塗材	アレス水性弾性アクリル (ウールローラー2回塗り)
		アレス水性弾性ウレタン (ウールローラー2回塗り)
		アレス水性弾性シリコン (ウールローラー2回塗り)

JIS A 6909 可とう形合成樹脂エマルジョン系改修用仕上塗材 (可とう形改修塗材E)

試験項目	結果	試験規格
低温安定性	合格	塊がなく組成物の分離・凝集がないこと。
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	合格	ひび割れがないこと。
付着強さ (N/mm ²)	標準状態	1.3 0.7以上
	浸水後	1.2 0.5以上
温冷繰り返し作用に対する抵抗性	合格	試験体の表面に、はがれ・ひび割れ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がないこと。
透水性B法 (ml)	0.1	0.5以下
耐衝撃性	合格	ひび割れ、著しい変形及び剥れがないこと。
ひび割れ充てん性	合格	基板の溝の部分に、塗膜のひび割れ及び穴がないこと。
耐候性A法	合格	ひび割れ及び剥れがなく、変色がグレースケール3号以上であること。
可とう性	合格	ひび割れがないこと。
試験仕様	主材	アレス弾性ホルダー防水形 (多孔質ローラー1回塗り)
	上塗材	アレス水性弾性アクリル (ウールローラー2回塗り)
		アレス水性弾性ウレタン (ウールローラー2回塗り)
		アレス水性弾性シリコン (ウールローラー2回塗り)
		アレスアクアセラシリコン (ウールローラー2回塗り)

品名・荷姿

下塗	エコカチオンシーラー	15kg
下地調整材 (中塗)	マルチタイルコンクリートプライマー-EPO	20kgセット(ベース:16kg、硬化剤:4kg)
	アレス弾性ホルダー防水形	16kg
上塗	アレス水性弾性アクリル	15kg
	アレス水性弾性ウレタン	15kg
	アレス水性弾性シリコン	15kg
	アレスアクアセラシリコン	15kgセット(ベース:14kg、硬化剤:1kg)

適用下地

コンクリート・モルタルなど

適用旧塗膜

アクリルリシン・吹付タイルなど

〔標準塗装仕様〕

工 程	塗 料 ・ 処 置	塗 装 回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗 装 間 隔 (23℃)	塗 装 方 法	希 釈 率 (%)		
1	素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な補修を施す。劣化塗膜をケレン工具（皮スキ、ワイヤーブラシ）で除去し、ホコリ、汚れ、チョーキング粉を高圧水洗で除去する。						
2	下地調整材 (下塗・中塗)	アレス弾性ホルダー防水形 上水	1	0.8~1.5	8時間以上 7日以内	多孔質ローラー	1~4	
3	上 塗	水性ウレタン樹脂仕上げ	アレスアクアレタン 上水	2	0.13 (0.16)	2時間以上 7日以内	ウールローラー (エアレス)	3~10 (3~10)
		水性アクリルシリコン樹脂仕上げ	アレスアクアシリコンACⅡ 上水	2	0.13 (0.16)	2時間以上 7日以内	ウールローラー (エアレス)	5~10 (5~10)

〔JIS A 6909 可とう形改修塗材E適合仕様〕

工 程	塗 料 ・ 処 置	塗 装 回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗 装 間 隔 (23℃)	塗 装 方 法	希 釈 率 (%)		
1	素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な補修を施す。劣化塗膜をケレン工具（皮スキ、ワイヤーブラシ）で除去し、ホコリ、汚れ、チョーキング粉を高圧水洗で除去する。						
2	下地調整材 (下塗・中塗)	アレス弾性ホルダー防水形 上水	1	0.8~1.5	8時間以上 7日以内	多孔質ローラー	1~4	
3	上 塗	水性ウレタン樹脂仕上げ	アレス水性弾性ウレタン 上水	2	0.15 (0.18)	2時間以上 7日以内	ウールローラー (エアレス)	3~8 (10~20)
		超低汚染水性アクリルシリコン樹脂仕上げ	アレスアクアセラシリコン 上水	2	0.13 (0.16)	4時間以上 7日以内	ウールローラー (エアレス)	5~10 (10~20)

〔JIS A 6909 防水形複層塗材E適合仕様〕

工 程	塗 料 ・ 処 置	塗 装 回数	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗 装 間 隔 (23℃)	塗 装 方 法	希 釈 率 (%)		
1	新 設	エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどをワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを用いて除去・清掃する。(pH10以下、含水率8%以下とする。)						
	塗 替	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な補修を施す。劣化塗膜をケレン工具（皮スキ、ワイヤーブラシ）で除去し、ホコリ、汚れ、チョーキング粉を高圧水洗で除去する。					—	
2	下 塗	エコカチオンシーラー	1	0.13 (0.17)	2時間以上 7日以内	ウールローラー (エアレス)	0 (0)	
3	中 塗 1層目	アレス弾性ホルダー防水形 上水	1	0.8~1.5	4時間以上 7日以内	多孔質ローラー	1~4	
4	中 塗 2層目	アレス弾性ホルダー防水形 上水	1	0.8~1.5	8時間以上 7日以内	多孔質ローラー	1~4	
5	上 塗	水性ウレタン樹脂仕上げ	アレス水性弾性ウレタン 上水	2	0.15 (0.18)	2時間以上 7日以内	ウールローラー (エアレス)	3~8 (10~20)
		水性アクリルシリコン樹脂仕上げ	アレス水性弾性シリコン 上水	2	0.15 (0.18)	2時間以上 7日以内	ウールローラー (エアレス)	3~8 (10~20)

*標準所要量は、被塗物の形状や素材・塗装方法・環境などによって増減することがあります。
 *上記の標準塗装仕様・シーラーレス改修仕様において、下地が脆弱な場合や吸込みが大きい場合、下地補修部、または新設時には下塗シーラーを塗装してください。
 *上記仕様は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書と異なる場合があります。詳細につきましては、下記の販売部署にお問い合わせください。

■ 施工上の注意事項

- 1) 新設のセメントモルタルやコンクリート面は、含水率8%pH10以下になるまで乾燥させてください。
- 2) 塗り替えの場合、旧塗膜の劣化が著しいときはサンダー、ワイヤーブラシ等でせいりな塗膜を除去し高圧水洗を行なったのち、1日乾燥後塗装してください。
- 3) 気温5℃以下、湿度80%RH以上、また強風、降雨、降雪が予想される場合は塗装を中止してください。
- 4) 押出成型板、GRC板などは浸透形Mシーラーをご使用ください。
- 5) シーリング材の種類により割れ、汚れが発生することがあります。
- 6) 塗料は均一な状態になるよう十分かき混ぜてください。希釈率は、環境温度によって変化する場合がありますので模様をよく確認して調整してください。規定仕上の希釈は仕上り不良の要因となりますのでご注意ください。
- 7) 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使

- 8) 用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じる場合があります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗に「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」を塗装してください。
- 9) ハケ塗りや補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上り肌の違いによる色相差が生じることがありますので、ご注意ください。
- 10) 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 11) 旧塗膜がスタッコのような大柄模様の場合は各工程の塗料を十分に塗り込んでください。濃彩色の塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類履具類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。

ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。
- 詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

■ 予 防 策

- 取り扱った作業中・乾燥中ともに換気の良い場所を使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は送気マスクを着用すること。又、取り扱った作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、顔巾巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱った後は、洗顔、手洗い、うがい、及び鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

■ 対 応

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

吸 入 し た 場 合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。

- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

■ 保 管

- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
- 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
- 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

■ 廃 棄

- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

■ 施工後の安全

- 本品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工者に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立ち看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

本 社 TEL (03) 5711-8904 FAX (03) 5711-8934
 北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
 東 北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
 北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223
 東 京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
 中 部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
 大 阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603
 中 国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
 四 国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
 九 州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

*製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますので諒承ください。

ご用命は